

2022年度 織田ファッション専門学校

学校関係者評価報告書

(令和4年度)

評価対象期間

2022年4月1日～2023年3月31日

織田ファッション専門学校

学校関係者評価委員会

1. はじめに

2022年（令和4年）4月1日～2023年（令和5年）3月31日を評価対象期間とした自己点検評価報告をもとに織田ファッション専門学校学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここにご報告いたします。

本校が社会およびファッション業界に対して高い価値を提供すべく、より良い教育を目指すため、委員の皆様にご評価とご意見をお伺いいたしました。学校関係者評価の結果を踏まえ、学校運営の更なる改善と教育の質向上に努めて参ります。

開催日：2023年5月1日（月）15：00～16：30

会場：織田学園第8校舎 グリーンホール

2. 学校関係者評価委員（敬称略）

氏名	所属	役職等	種別
山野 晴雄	多摩地区高等学校進路指導協議会	顧問	有識者委員
内藤 久美	株式会社 辻洋裁店	パタンナー	企業等委員
松野 仁美	フリーランス	スタイリスト	卒業生

3. 自己評価に対する学校関係者評価委員の評価方法

学校より自己評価の各項目について関連資料を交えて報告と説明を行い、自己評価の評価点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切・未実施…1）が適切か適切でないかを学校関係者評価委員3名よりそれぞれ評価をいただいた。

4. 自己評価に基づく学校関係者評価

【1. 教育理念・目標・育成人材像】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
理念・目標・育成人材像は、定められているか。	4	適切 3名
学校における職業教育の特色が明確になっているか。	4	
各学科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	

学校の教育理念に沿った①アドミッションポリシー ②カリキュラムポリシー ③ディプロマポリシーを設定または改訂できたか。	4	
---	---	--

<ご意見・評価等>

○学校案内・HPで織田ファッション専門学校の強み、目指せる職業などを明記している点は評価できる。

○3つのポリシー(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー)を明文化し、HPで公開されているのは望ましいが、ディプロマポリシーについては、業界の初期キャリアで求められる知識や技術の習得までを明記するのが望ましい。

○外部講師など、学外の様々な方からの意見を聞き視野を広げ、なりたい職業を見据えられる環境づくりは時代に合っていると考え、評価する。

○かなり明確に教育目標を掲げており、更に時代に合わせて向上を図る姿勢を評価する。

【2. 学校運営】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
教育理念・目標に沿った運営方針が策定されているか。	4	適切 3名
外部関係者の評価(教育課程編成委員会)を有効に活用できたか。	4	
現場経験のある教員やファッション業界で活躍中の卒業生の活用は促進できたか。	4	
外部企業等に強い外部講師等は有効に活用できたか。	4	
学生のニーズは把握できたか。	4	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	

<ご意見・評価等>

○教育課程編成委員会の意見を参考にカリキュラムをたえず見直していくこと、企業とのコラボレーション授業を取り入れていくこと等は今後も続けていきたい。

○年度末の学生アンケートで、具体的な教育ニーズを把握することに努めている点を評価する。

【3. 教育活動】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか。	4	適切 3名
教育カリキュラムは体系的に編成されているか。	4	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立って、カリキュラムや	4	

教育方法の工夫・開発などが実施されているか。		
実践的な職業教育（産学連携教育、インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	4	
授業評価を実施し、その評価体制はあるか。	4	
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	
教員の研修・自己啓発は促進できたか。	4	

<ご意見・評価等>

- 教育研修について、個々の教員の自己研修は実施されているようだが、連携企業への研修や外部研修への参加についてもより積極的に実施していただきたい。
- 授業評価についても年度末のアンケートにて引き続き実施し、授業に対する要望を把握することで、カリキュラム再編成に役立てていただきたい。
- 毎年カリキュラム編成を見直し、柔軟に改正している点を評価する。
- 教員も一人の人間なので、個人差・適材適所等あると思われる。人材不足なども懸念されるが、教員のレベルアップや能力・人間性を見極め等について、具体的にどのようにされているのかを発信してはどうか。

【4. 学修成果】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
生活支援の充実化は図れたか。	4	適切 3名
教育支援の充実化は図れたか。	4	
就職支援の充実化は図れたか。	3	

<ご意見・評価等>

- 経済的困難を抱える学生に対する公的奨学金制度の活用等による支援、相談体制をより充実させるよう努めていただきたい。
- 就職活動の意欲の低い学生に対する支援については、個別相談体制を充実させることで手厚いサポートを図っていただきたい。
- 就職活動の意欲が低い学生はインターンシップへ1度だけ参加し、相性が合わなかったことがひとつの要因のように感じる。最低でも3~5か所には足を運ぶ機会を設け、選択肢を広げる取り組みが必要だと思われる。
- 学生の一人ひとりの事情等にも真摯に取り組んでいる様子が情報発信から伝わる。この時代だからこそ、密なコミュニケーションは大事だと改めて感じる。

【5. 学生支援】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか。	3	適切 3名
心理検査(ハイパーQU)から得られた情報は適切に活用できたか。	4	
学生のメンタルヘルス対応は積極的に取り組めたか。	4	
卒業生への支援体制はあるか。	4	
学生情報の教職員間での共有は効果的に行えたか。	4	
保護者との連携は適切だったか。	4	

<ご意見・評価等>

○退学者が増加したことは非常に残念である。保護者との協力体制やカウンセリングの充実、教員間での情報共有などを強化し、少しでも減らせるように努めていただきたい。

○厳しさも必要だが、最初の半年は授業内容や学校生活を楽しいと思ってもらえるような取り組みをしていただきたい。環境に慣れてきたうえでの厳しさであれば受け入れやすいとも考える。退学率の改善にも繋がると思われる。

○少人数制という強みは、広報物等の在校生のコメントを見ても色濃く出ているので、他校と比べて在学中の精神的負担は少ない方だと思われる。何に集中したいかは個人差があると思うが、やはり“話す”ことで理解・解決することもあるはずなので、専用の相談窓口は必須だと感じる。

【6. 教育環境】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
卒業生・在校生・学校間のネットワーク構築への取り組みについて進捗・改善は見られたか。	3	適切 3名
施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	

<ご意見・評価等>

○キャリアマップは就職活動のためのツールという域を出ない。卒業生との関係継続は同窓会を組織し学校と連携するのが望ましい。

○ミシン、アイロン等の教育に必要な備品は不足の無いように揃え、学生からの要望も把握するように努めていただきたい。

○キャリアマップの認知度が低いと思われる。卒業生である自分自身も知らなかった。せめてファッション業界において現役で活躍している卒業生にはもっと周知を促すべきと考える。

○自分自身が卒業生であり、確かに疎遠になりそうな時期もあった。何年経っても繋がり続ける要素はほしいところだと思う。

【7. 学生の受け入れ募集】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
数値目標(入学生数 80 名)は達成できたか。	4	適切 3名
OC 参加者の増加は達成できたか。	4	
OC からの取り込み率は向上できたか。	4	
学生募集における学校の訴求ポイントについて広報と協議の上で決められたか。	4	
広報物の訴求の一貫性を図れたか。	4	
広報物の制作にあたり、学校と広報とで意見交換が図られたか。	4	
広報担当スタッフとの連携を強化できたか。	4	
OC 時の参加者対応スキルの向上は図れたか。	4	
OC の結果等の分析や、コース内容のブラッシュアップ等について学校と広報とで十分な意見交換ができたか。	4	
SNS 等、学校の認知 PR は適切に行えたか。	4	

<ご意見・評価等>

○HP、SNS などで情報発信を適切に行っていることは評価できる。オープンキャンパスも学生の協力を得て実施されているとのことで問題はない。

○高校訪問を定期的に行い、高校教員への認知を得る努力、校内ガイダンスへの参加などの取り組みも引き続き積極的に取り組んでいただきたい。

○オープンキャンパスでは学校説明や体験授業のほかに、最新のトレンド紹介として YouTube でコレクションのショーを見る時間を設けてはどうかと思う。ブランドに頼る形にはなってしまうが、高校生は普段見る機会が少ないと考える。ファッションに心動かされるきっかけになると良い。

○ファッション業界全体で考えなければいけない課題のようにも思う。卒業後の未来が明るくなければ、入り口にすら来ないのは想像がつく。業界の人間としても身が引き締まる思いである。

【8. 財務】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
経営感覚の教職員間での共有は図れたか。	3	適切
財務改善への取り組みは推進できたか。	4	3名

<ご意見・評価等>

- 財務情報がHPに公開されていることは評価できる。
- 入学者を増やすことと合わせて退学者を減らす努力を教職員一丸となって進めていただきたい。
- 何よりもオープンキャンパスの強化や学校訪問を通じて学生数を確保するほかないと考える。
- どの業界も少なからず、コロナ禍の影響はあると思われる。何を重視するかの見極めは重要だと思うので、これからに目を向けて希望を見出してほしい。

【9. 法令等の遵守】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
コンプライアンス意識を再確認できたか。	3	適切
自己評価の結果を公開しているか	4	3名

<ご意見・評価等>

- 年々情報公開が充実してきており、適切な学校運営が行われている。
- 時代に沿った適切な取り組みがなされていると考える。

【10. 社会貢献・地域貢献】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
地域や地方公共団体と連携し、受託等を積極的に実施しているか。	3	適切 3名

<ご意見・評価等>

- 地域や自治体と連携したイベント等に参加しており、社会貢献・地域貢献を行ってきたことが伝わる。
- 地域が開催するファッションショー等にも積極的に参加していただきたい。
- 商品制作によって、質の高さとは何かを学ぶことができる。イベントを通じて感化される人もいるはずなので、引き続き取り組んで欲しい。

【11. 国際交流】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
留学生受入れ、学習・生活指導等について適切な体制が整備されているか。	4	適切 3名

<ご意見・評価等>

- 感染症が落ち着いたタイミングで海外への研修旅行なども検討してはどうか。
- 留学生専門の職員がいるとのことで、留学生の受け入れ態勢自体は問題ないと思われる。

5. 総評

- ファッション分野の職業実践専門課程認定校として、企業と連携した実践的な職業教育が行われている。今後もファッション業界のニーズに対応したカリキュラムの改善を図り、教育の充実に努めていただきたい。
- 入学者の確保は重要であり、HP・SNS等での学校情報の積極的かつ効果的発信、高校訪問やキャリア教育での連携など、高校との関係を深め、学生募集への一層の努力を期待したい。
- 学園祭などの登校することが楽しくなるようなイベントや、学生と教員の何気ないコミュニケーションの場をもっと増やしていくことで、退学率も抑えていけるのではないか。
- このコロナ禍でも、よく考え、よく動き、真摯に取り組んでいる様子がよくわかる。全体的に自己評価は高めのようなようであるが、それでも慢心せずに向上心の高い姿勢を貫いていただきたい。また、私自身もそれを見習いたい。
- 自身の在学時代からのイメージと、良い意味で変わっていないので安心しているが、内情は厳しい一面もあるようである。今後も私自身ができることは協力していきたいと僭越ながら思っている。
- 引き続き、学校という組織の中で学生や教員然り、“人”を大事にしていく織田学園であって欲しいと思う。
- 在校生皆に夢をかなえさせてあげられる学校であってほしい。こうすればもっとよくなるなど、言葉を選びつつ、学生たちのモチベーションを高める教育を今後も続けていっていただきたい。

織田ファッション専門学校
学校関係者評価委員会